

2019（令和元）年度前期第2回 DUOリーグ会議議事録

◆DUOリーグ会議

【日 時】 2019（令和元）年7月15日（月） 17:00~18:15

【場 所】 本郷高等学校 第二PC室

【出 席】 35クラブ(氏 名)

都小石川（宗友）	昭和一（永井）	三菱養和（宗友）
京華（小金丸）	都向丘（倉口）	筑波大附（中塚）
学習院（玉生）	豊南（塩田）	本郷（岩野）
城西（福本）	豊島学院（早川）	郁文館（井上）
駒込学園（宮坂）	棠鴨（馬場）	立教池袋（橋本）
獨協（新井）	淑徳棠鴨（石原）	都竹早（蓑輪）
日大豊山（海老根）	都文京（小西）	都足立（玉山）
都江北（大原）	足立学園（遠藤）	都荒川商（関根）
中大高（加藤）	都千早（井手口）	都足立新田（田中）
貞静学園（杉本）	都淵江（加藤）	都豊島（浅井）
都青井（ ）	FC西巣鴨03（田中）	文中選（丸山）
都足立西（佐々木）	都立足立東（和田）	

【欠 席】 青井（浅野）

【オブザーバー：選手】

文京・白石、淵江・鈴木、筑波・伊藤、筑波・本間

【オブザーバー：一般】

小俣

【議事録作成者】

NPO法人サロン2002

【報告】

理事会報告：2019年7月12日（金）16:00~17:00 於駒込高校 会議室

岩野、玉生、小金丸、遠藤、井上、杉本、嶋野、海老根

（欠席）サロン2002

■ 共有事項

- ▶ チェアマン：理事会で議論・決定した内容については、下記議題にて共有する。

<議 題>

I. チェアマン&理事会より

1) 貞静高校のチーム参加について

今年度、リーグ途中でのチーム登録名・メンバー登録変更についての経緯。

- ▶ チェアマン：2019年度前期については、貞静高校が本郷高校との合同チームで出場している。前回DUOリーグ会議前に貞静高校よりチェアマンに相談があったが、DUOリーグ会議で議論することを失念していたため、リーグ開始後にメーリングリストで共有した。今後も同様に人数不足で合同チームを結成するケースが発生する可能性がある。
- ▶ 今後のこのような事例について以下の原案が理事会より示され、①②については全会一致で承認された。③については、議論の結果「昇格なし、降格あり」との結論に至った。

2月のチーム参加調査の時点で人数不足の恐れがある場合

①どのクラブと合同チームとして参加するのが表明する。

②サポートとして合同チームを組むクラブはしっかりとすみ分けをし、2重登録がないようにする。
(移籍は通常通りの規定でおこなう)

③昇格・降格については通常通り。→ 議論の結果、「昇格なし、降格あり」という結論に至った。

■ 議論の経過

玉山：合同チームが1部リーグに所属する場合、地区トップリーグに昇格させるか。

チェアマン：現在、1部リーグに所属する荒川商業が実際に来年度人数が足りなくなる可能性がある。

関根：野球では「派遣」という仕組みがある。荒川商業としては、合同チームを結成する可能性もある。何か仕組みがあると有難い。

チェアマン：昇降格についてはまずはDUOリーグ内での昇降格に限定して考えるのはどうか。

玉山：単独で1部リーグから地区トップリーグに昇格し、人数が足りなくなる場合もある。

チェアマン：その場合については、DUOリーグで決定することではない。

石原：3部リーグであっても合同チームの昇降格を認めるということについては、レベルが高いクラブと合同チームを結成した時にパワーバランスが崩れる懸念がある。合同チームがリーグに参加することについては賛成である。

中塚：理事会での議論について確認したい。合同で昇格する場合、その本体は複数チームということになるか。

岩野：人数が足りないチームに他のクラブからメンバーを補充する形での合同チームを想定しているため、本体は1チームとなる。昇降格については、理事会で議論しておらず、チェアマンからの原案である。石原先生からの意見も踏まえて、パワーバランスや他のチームのモチベーションを考えて、昇降格についてはなしにするのが良いかと思う。

小金丸：昔、三宅島が噴火した時に三宅高校と京華高校Bチームで合同チームを結成したことがある。向丘Bと京華Bで白山クラブを結成したことがある。昇格については石原先生の意見に賛成で、無しで良いと思う。降格については有りでも良いかと思う。試合の機会を作るということが最も大切である。

玉山：母体のチームより借りてきたメンバーの方が人数が多い場合もあり得る。

岩野：実際に現在の貞静高校がそのような状況である。7~8人が本郷高校からのメンバーである。少ない人数のクラブでも試合機会を作るという趣旨から考えて、昇格は無し、降格ありとするのはどうか。

→出席者より反対意見はなく、「昇格なし、降格あり」の結論に至った。

2) トロフィー問題

7月8日に送ったメール

靴型トロフィーが作られた経緯について（以下、前チェアマン・中塚氏の2008年DUO開幕挨拶から引用）

『
DUOリーグの1部優勝トロフィーは、持ち回りをしているうちになくなってしまいました。いまは優勝チームに、トロフィーのレプリカのみ授与しています。
これではアカン。DUOリーガーの手で、自分たちのトロフィーをつくろう！
こうして「トロフィーがない！」プロジェクトが始まりました。アーティスト（KOSUGE1-16の土谷さん）とクツ創家（佐藤さん）の協力を得て、「自分たちの使い古したサッカーシューズから革を採取してトロフィーにする」という、まったく新しいトロフィー作りが始まります。そのための「靴磨き・靴バラシ講習会」が前期中に何度か開かれ、靴の手入れ方法が書かれたカレンダーも作られました。
本年度のスローガンは、「トロフィーを、みんなで作ろう！」です。
前期リーグ優勝チームに渡される予定のトロフィーは、次のねずみ年まで使います。まずは「靴磨き・靴バラシ講習会」に参加しましょう！
』

今年亥年（イノシシ）ですが、今年のエンブレムが最終となるようです。この時の開幕挨拶が計算違いだったようです。来年のねずみ年は使えない、ということですね。
よって、来年、ねずみ年のトロフィーをどうするか？というのがテーマになってきます。ムーブメントが起きるこ

とを期待して、12年で靴型トロフィーは次のトロフィーに作り替えるという当初の考え方だったようです。DUOの歴史について議事録や文献を読まない勉強不足な現チェアマンが勘違いして、「このまま靴型トロフィーを使えばいいじゃん」なんて発言したもんだから前チェアマンにかみつかれてしまいました。

全くの原案がなければ会議も滞ってしまうので、靴型トロフィーは今年で最後＝新しくトロフィーを考えるということは決定事項として動き、新たなムーブメントが起きなければ、持ち回りのトロフィーは作成せず従来のトロフィー(レプリカ)を授与する形となる予定です。

「こんなトロフィー面白いじゃん!」という意見があれば会議前にメーリングリストで提案してください。その提案を元に会議当日にもんでいきましょう。そのムーブメントが起きてから新トロフィー作成プロジェクトを立ち上げることとなると思います。

■ 結論

- トロフィーについては、靴型トロフィーを引き続き使っていく。エンブレムを貼る位置については理事会でも検討して、2020年2月のDUOリーグ会議で決定する。

■ 議論の経過

チェアマン：前回のDUOリーグ会議ではチェアマン自身認識していなかったが、靴型トロフィーについては12年間使用するということが作成時から決められていた。理由としては、12年間のうちに新たなムーブメントが起きる可能性があるため。2019年リーグが12年目である。7月8日よりメーリングリストで意見を募ったが、何も意見は出てきていない。メーリングリストでは、靴型トロフィーの使用は2019年リーグまでとして、2020年リーグより一般的なトロフィーを授与する形で提案した。

理事会で話し合った結果、チェアマン原案ではなく、サロン2002からも妥協案として出た「靴型トロフィーを再利用」という方向が一番いいのではないかという結論に至った。ポロボロになって壊れたわけでもなく、きれいなままで、もらった選手たちの驚く顔が見れるこのトロフィーを継続していきたい。エンブレムの貼る場所については考える余地はあるが、新たに貼れるスペースがあるのでそちらに追加する形で靴型トロフィー継続でどうだろうか。

現在貼ってあるエンブレムを爪先部分など別の部分に移し、新たにエンブレムを貼るスペースを設けるというアイデアや現在貼ってあるエンブレムの上に新たなエンブレムを貼り、めくれるようにするなどのアイデアが出されている。2020年10月のDUOリーグアウォーズまでに準備する必要がある。サロン2002からはヤタガラスにちなんだトロフィーの作成という意見も出されたが、新たなトロフィーを製作するためにはDUOリーグクラブからムーブメントを起こす必要がある。

この会議では、①靴型トロフィーを使い続けるか、②新たなトロフィーを作成するか、③一般的なレプリカのトロフィーや盾を使用するの3つの選択肢から結論を得たい。原案は①とする。前期リーグは1部リーグ所属クラブしかトロフィーを手にするチャンスがないが、後期リーグについてはどのクラブにもチャンスがある。ぜひ意見が欲しい。

加藤：トロフィーは年月の積み重ねがあった方が有り難みがあるため、現在の靴型トロフィーを引き続き使っていきたい。

チェアマン：歴代の優勝チームが刻印されているトロフィーは継続しようしていくべきという意見が理事会でも出た。プログラムだけでなく、トロフィーを見て歴史を感じられるのは良い。

中塚：DUOリーグ前チェアマンとNPO法人サロン2002の理事長の2つの立場から発言する。

大半の出席者はトロフィーの作成経緯が分からないと思う。そもそも、全国に先駆けてDUOリーグをはじめたのは「遊び」である。人類最高の遊びであるフットボールを面白くやるにはどうしたら良いか飲みながら話す中で出来上がった。

それから、10年以上経ち、リーグ戦が全国的にも整備されてきて、遊び心がなくなってきた。そのような中で、持ち回りのトロフィーを誰かが無くすというマヌケなことが起きた。このマヌケな出来事をきっかけにサロン2002の会員であるアーティストなどとも一緒にみんなで

んなトロフィーを作れるか、遊び心を持ちプロジェクトを開始した。そして、靴型トロフィーの作成が決まり、試合を終えたDUOリーガーが靴磨きや靴の革を剥がす作業をしてトロフィーの素材である革を集め、アーティストの協力を得て作成した。しかし、これは、作った人が使うから価値があるということで、最初から12年間使用するという話をしていた。その後もリサイクルプロジェクトとして、DUOリーグの中のプロジェクトとして実施してきた。

しかし、チェアマンが変わった時に企画部を外出してしまった。そして、サロン2002で企画部を担うことになったが、逆にDUOリーグの中におもしろいこととしていこうというパワーがなくなってしまっているのではないかと心配してきた。そのような状況の中で12年経過し、もう1度トロフィーを作るチャンスが生まれた。

タイミングよく、日本ヤタガラス協会という組織が発足し、私も関わることになり、ヤタガラス型のトロフィーを作れないかなということ投げかけた。しかし、それを作るには相当なエネルギーが必要ということもあり、サロン2002の中では妥協案としてDUOリーグの中にもようやく定着してきた靴型トロフィーを引き続き使うのも悪くないのではないかと結論に至った。しかし、エンブレムをどのように貼るかくらいはDUOリーグの中で考えてもらいたい。

とにかく、大事なことは、遊びを自分たちで作っているんだというマインドだと思う。

チェアマン：靴型トロフィーを引き続き使っていきたいと思う。エンブレムを貼る位置については理事会でも検討して、2月のDUOリーグ会議で決定する。

3) DUOリーグ・アウォーズ

新人戦の組み合わせ抽選会に合わせて行なうが、新人戦組み合わせ抽選会の日時が未定。

場所・日時がわかり次第メーリングリストにて送信いたします。

4) サロン 2002・事務局より

特になし（未納クラブについては『各担当より』にて確認）

II. 各リーグ進捗状況と順位決定戦

①各リーグ責任者より 特に進捗状況を詳しく・・・

責任者が把握していない場合はリーグ会議後に各ブロックに分かれて再度日程調整会議をおこない、終了後、チェアマンに報告。

☆1 部リーグ

小金丸：未定の試合については今日中に日程を調整し、8月末までにリーグ戦を終了する。

京華対荒川商業の結果はメーリングリストで報告済み。

チェアマン：都足立と昭和一の試合が未定が多い。後で話し合っ欲しい。

☆2 部・3 部リーグ：

小俣：2部Cリーグについては、7月中に試合を組むようにメーリングリストで呼びかけているため、8月5日頃に順位確定したい。

永井：3部Dリーグについては、把握できていない。足立C関連の試合が消化できていない。

杉本：3部Eリーグについて、獨協対豊南についてはメーリングリストには流れている。ホームページにはアップできていなかった。残り3試合。

2019年度 DUOリーグ役割分担

	1部 A	2部 B	2部 C	3部 D	3部 E
責任者	小金丸(京華)	栗山(都淵江)	小俣(足立新田)	永井(昭和第一)	杉本(貞静学園)
副責任者	岩野(R本郷)	三輪(筑波大学付属)	早川(豊島学院)	玉山(都立足立)	新井(獨協)
記録	橋本(立教池袋)	倉口(都向ヶ丘)			
	大塚(荒川商業)	井上(郁文館)	鳥海(都立文京)	浅井(都立豊島)	馬場(巣鴨)
審判	大原(江北)	吉田(駒込)	蓑輪(都立竹早)	嶋野(西巣鴨)	大原(都江北)
会計	伊藤(足立学園)	石原(淑徳巣鴨)	加藤(中大)	岸(FC西巣鴨03)	佐々木(都立西)
技術	永井(昭和一)、玉山(足立)	宮上(駒込)	中島(駒込)	和田(足立東)	塩田(豊南)
競技	海老根(日大豊山)	宗友(小石川中等)	浅野(青井)	井出口(千早)	鳥海(都文京)
		井上(都立)			

②順位決定戦の確認

☆1部リーグ：8月末までにリーグ戦を終了する。順位決定戦はなし。

☆2部・3部リーグ：7月末を基本として順位確定。7月中に組めていたのに雨や雷で流れてしまった場合は8月5日を目安に。それを過ぎる場合はチェアマン(岩野)に相談するように。順位決定戦に影響しない試合であれば8月13日頃まで実施を認めるが、順位に影響する試合は8月10日以降承認できない。くても順位決定戦に関しては8月中に順位決定戦を行う。上記、リーグ戦の消化を優先させたため、当該チーム同士でどうしても8月中組めなかった場合、同じくチェアマンに相談するように。

【2部3部の順位決定戦 レギュレーション確認】

40分ハーフ・延長なし・即PK

➤ 2部B・2部Cについては郁文館と都立文京が既に昇格権を得ている。

Ⅲ. 各担当より

1. 事業部門(杉本)

1) 競技部(各リーグ責任者)

進捗状況で先ほど各リーグ責任者からありました。

2) 審判部(◎日大豊山・城西・立教池袋)

➤ 海老根：来年3月頃開催の審判講習会については立教池袋が幹事となる。

3) 技術部(◎豊島学院・都竹早)

➤ 早川：八丈島遠征と関連した企画について話し合えていない。技術講習会もまだ計画できていない。

➤ チェアマン：地区トップリーグでは、1部リーグ主催で元市立船橋高校で現ジェフ千葉の監督である朝岡氏の講演会が8月19日17:30~に開催される。このような講演会も実施できると良い。

2. 管理部門(井上)

1) 経理部(◎事務局・足立学園)

<未納クラブ(7月14日現在)>

・豊島学院高校、都立淵江高校、貞静学園高校、都立青井高校

➤ チェアマン：都立青井高校については本日連絡したが、DUOリーグ会議について把握できていなかったとのこと。参加費についてもリマインドする。

2) 広報部(◎淑徳巣鴨・都向丘)

➤ チェアマン：今年度は10連休の影響でプログラムの作成が遅れた。2月の登録時点で締め切り、3月末にはプログラムを配布するという意見も個人的に出しているが、新1年生も含めて4月以降に作成するという方向性で進んでいるため、5月に届くスケジュールになっている。

➤ 井上：来年も4月の締め切りは厳守するように。

3) 規律部 (◎駒込・都小石川)

▶ 特になし

3. 企画部門 (サロン2002)

- 1) リサイクルプロジェクト
- 2) その他企画していること

▶ チェアマン：各クラブからなかなか新しい企画が生まれにくいということでサロン 2002 に委託しているが、テーピング講習会・栄養講習会以外、なかなか新しい企画が動いていない。新たな企画を提案して欲しい。

IV. その他

V. 後期イベントについて

【フレキシブルリーグ】

○大会概要

- ・希望参加チームを募りリーグを作成。
- ・後期リーグ参加費を徴収しない。
- ・11人制、試合時間は双方話し合って決める。連戦や不消化もありとする。勝敗が決定しない場合には引き分けとする。
- ・メンバー表の提出は不要。
- ・結果は前期と同様メーリングリストに流す。
→同時にサイトへのアップ(当該チームで必ず話し合いの上決める。)
- ・フリーサイズフットボールと各リーグの優勝チームでチャンピオンシップを行う。
→昨年度は12月24日(月)京華浦和グラウンドにて開催。

《平成30年度報告》

各リーグ優勝チームとフリーサイズ優勝チームの4チームを、11人制(20分ハーフ)フルコートゲームでトーナメント戦を行った。

※江北高校は辞退チームがあったため繰り上げ参加

①足立新田一中大高(前半0-0、後半1-1、PK5-3)

②駒込-江北(前半0-0、後半0-0、PK0-3)

③3位決定戦 駒込-中大高(1-0)

④決勝戦 足立新田-江北(0-1)

優勝：都立江北高校

※今後メーリングリストにて参加チームを募集(前期リーグ順位確定後)

■ 杉本事業部長より

昨年度から大きな変更点はなし。前期よりルールが厳しいものではないため、出来るだけ参加して欲しい。昨年度は日程調整会議が台風の影響でできなかった。今年度は必ず日程調整会議を実施する。メーリングリストで参加チームを募る際に日程調整会議の開催日時もお知らせする。フリーサイズもぜひ参加・運営をして欲しい。

【フリーサイズフットボール】

フリーサイズフットボールの良いところは、人数や環境に関わらずボールに触れることの喜びや、サッカーの本

質を楽しむことができるところです。積極的に開催・参加をお願い致します。

○大会概要

- ・ルールは主催クラブが決定
- ・開催日時・大会形式をメーリングリストへ流す

過去にあった例

- ・5対5のミニゲーム大会+PK合戦
- ・ハーフコートによる8対8 など
- ・フリーサイズフットボールでかかった会場費を上限5000円までリーグから負担
→その他かかる運営費等はいままでと同様で主催チームに委ねる。

VI. 高校生出席者より（感想）

小西（文京）：今日の会議に出席して、どのようにリーグが成り立っているか分かった。

白石（文京）：トロフィーの問題だったり、運営の難しさが感じられた。

伊藤（筑波）：去年も会議に参加した。ありがとうございました。

本間（筑波）：DUO リーグの仕組み、どうして成り立っているかが分かった。

加藤（淵江）：会議に参加してリーグの裏側が分かり、ありがたさを感じた。

鈴木（淵江）：DUO リーグ会議に初めて参加して、裏の動きが分かった。ありがとうございました。

以上